

様式第2号の1-①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1-②を用いること。

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人河原学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数				省令で定める基準単位数	配置困難	
			全学共通科目	学部等共通科目	専門科目	合計			
人間環境学部	心理学科	夜・通信	0	5	8	13	13		
	環境科学科	夜・通信			8	13	13		
心理学部	心理学科	夜・通信		5	8	13	13		
	犯罪心理学科	夜・通信			8	13	13		
環境科学部	フィールド生態学科	夜・通信		5	8	13	13		
	環境データサイエンス学科	夜・通信			8	13	13		
看護学部	看護学科(旧)	夜・通信		0	13	13	13		
	看護学科(新)	夜・通信		0	13	13	13		
松山看護学部	看護学科(旧)	夜・通信		0	13	13	13		
	看護学科(新)	夜・通信		0	13	13	13		
総合心理学部	総合心理学科	夜・通信		0	14	14	13		
(備考)									

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人河原学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

ホームページにて公開 (https://www.kawahara-gakuen.jp/pdf/yakuin.pdf)

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容や期待する役割
非常勤	弁護士	2年	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
非常勤	元愛媛県議会議員	2年	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
非常勤	愛媛県監査委員	2年	多様な分野における経験や有意義な知見を本法人の教育機関の運営に活かし、自律的な運営を促進する
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人河原学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

<p>1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。</p>	
<p>(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)</p> <p>全学の教学を統括する教学マネジメント委員会において、シラバスの様式を検討し、コマシラバス(各コマ毎に詳細化されたシラバス)として統一の様式を整えたいうえで作成している。また、コマシラバス作成上の注意点を専任教員に対し伝えるため、説明会を実施している。非常勤講師には、留意点を記載した作成要領を送付し作成を依頼している。</p> <p>さらに、提出されたシラバスはカリキュラム責任者等、第三者により記載内容を確認するとともに、教学マネジメント委員会においても随時、記載内容の検証を行っている。</p> <p>なお、今年度における主な記載項目は、下記のとおりである。</p> <p>区分、科目コード、学年・期、科目名、単位数、授業形態、必修・選択、学習時間、前提とする科目、展開科目、関連資格、担当教員名、ディプロマ・ポリシーとの関係、カリキュラム・ポリシーとの関係、カリキュラム全体の中でのこの科目の位置づけ、科目の目的、到達目標、科目の概要、科目のキーワード、授業の展開方法、オフィスアワー、履修判定指標、評価方法、教科書、参考文献、実験・実習・教材費</p> <p>また上記に加え、各コマ毎に以下の記載項目がある。</p> <p>主題、科目の中での位置付け、コマ主題細目、細目レベル、キーワード、コマの展開方法、復習・予習課題、教材・教具</p> <p>授業計画(シラバス)の公表時期は、4月開講時に行い、履修登録時に受講を希望する学生が確認できるよう、配慮している。</p>	
授業計画書の公表方法	<p>ホームページにて公開</p> <p>(https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html)</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>単位の認定については、試験規程を定めるとともに、「受験資格」において出席時数を明確にしている他、学部学科毎に教育課程および履修方法に関する規程により成績評価基準を定めており、学生に配布する「履修の手引き」又は「学生便覧」に掲載している。また、コマシラバスにより“履修判定指標”が授業毎に定められており、その授業で修得すべき具体的内容を履修登録時から学生に対し、明確に示している。</p> <p>なお、コマシラバスについてはカリキュラム責任者等による第三者チェックが行われており、“履修判定指標”が定期試験などの評価対象となる内容と一致しているかどうかを学生向けアンケート調査により確認し、各学部や担当教員に対し、結果をフィードバックすることで改善を図っている。</p>	
<p>3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。</p>	

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)				
評価点	合否等	評語	GP	評価基準
100～90点	合格	S	4.0	学習目標をほぼ完全に達成している (Excellent)
89～80点		A	3.0	学習目標を相応に達成している (Very Good)
79～70点		B	2.0	学習目標を相応に達成しているが不十分な点がある (Good)
69～60点		C	1.0	学習目標の最低限は満たしている (Pass)
59点以下	不合格	D	0	学習目標の最低限を満たしていない (Failure)
試験欠席		E	0	試験付受験、課題未提出により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
授業放棄		F	0	出席不足等により成績評価要件を満たしていない (Withdrawal)
認定	認定	N	-	本学以外で修得したもので本学が単位認定したもの (Credit given under Credit provision)
$\text{GPA} = \frac{(4.0 \times S \text{ の単位数}) + (3.0 \times A \text{ の単位数}) + (2.0 \times B \text{ の単位数}) + (1.0 \times C \text{ の単位数})}{\text{履修登録単位数の合計}}$				
客観的な指標の算出方法の公表方法		ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html)		
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。				

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

【人間環境学部】

人間環境学についての幅広い教養を身につけ、人間環境学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の3つの能力を以って卒業要件としている。

1. 個人・社会・自然が直面する課題に対して専門的な理解を深めると共に、学際的な柔軟性を有し、実践的な能力を有すること。
2. グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力を有すること。
3. 企業・地域社会などのあらゆるコミュニティに寄与する組織的な活動能力を有すること。

また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連について、シラバスに掲載することにより、授業科目と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連性の意識づけている。

【心理学部】

人間環境学を基盤とした広い視野と柔軟な思考力を有し、さらに、心理学の専門分野についての深い理解力と実践力を備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、以下の3つの能力を以って卒業要件とする。

1. 現代社会における諸問題を心理学的な観点から把握し、修得した専門的知識と実践的能力によって主体的に課題解決にあたることができる。
2. 人の心の働きについて科学的に分析する力と、人の心の多様性および個別性を理解する力を獲得し、それらの力を問題解決への新しい提言に活用することができる。
3. 自分自身と他者との相互の関係に関心を持ち、地域社会に貢献する人材として自身の役割を認識しつつ組織的に行動することができる。

また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連についてシラバスに掲載することにより、授業科目と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連性の意識づけている。

【環境科学部】

人間環境学についての幅広い教養を身につけ、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の3つの能力を以って卒業要件とする。

1. 環境問題全般に関する幅広い視野と、自然や社会、情報の専門的な知識を持ち、持続可能な社会の構築に貢献する力を有する。
2. 自然環境や国際社会の課題を常に意識し、社会で求められる情報リテラシー、コミュニケーション力を備え、積極的に課題解決に取り組むことができる。
3. フィールドから情報を収集し、修得したデータ解析技術を用いて、新しい価値を創造できる。

また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連について、シラバスに掲載することにより、授業科目と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連性の意識づけている。

【看護学部】

人間環境学の探求に基づく〈人間〉と〈環境〉、および人間と環境との〈関係〉の深い理解の上に、豊かな人間性を培い、人びとの多様な健康ニーズに応えるため科学的根拠に基づいた質の高い看護実践を創造できる自立した人材を育成することを看護学部の教育理念としている。そのために教育目標に掲げた「専門的なコミュニケーション能力」「アセスメント能力」「判断力」「創造力」「実践力」「自己研鑽能力」が学修成果として備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、定められた128単位以上を修得し、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護実践に必要な専門的なコミュニケーション能力とヘルスアセスメント能力
2. 人びとの健康と環境について科学的根拠に基づき判断することができる能力
3. 多様な看護実践の場において、看護を創造し実践することができる能力
4. 保健医療福祉の連携においてリーダーシップを発揮し、発展に貢献できる能力
5. 看護を創造し実践するために必要な専門的知識を身につけ研鑽し続ける能力

【松山看護学部】

看護の対象となる人々に対し、直接的に質の高い看護実践ができる自立した看護職者を育成している。即ち、看護師、保健師の養成を行い、健康ニーズの増大に対し、多くの人々に共通する多様で質の高い看護が提供できる人材育成を行っている。さらに、健康生活への支援により疾病予防・疾病の悪化予防・病状や症状改善・リハビリテーション看護・終末期看護などによって、社会貢献を目指す。また、これらの看護活動実践に必要な5つの能力を以って卒業要件としている。

1. 専門職業人として自立した意志と、高い倫理観
2. 豊かな人間性を培い、ヒューマンケアの実践能力
3. 専門分野に関心を持ち、看護発展に寄与できる能力
4. 多職種と連携して地域環境に根ざした社会貢献できる能力
5. グローバルな視野や多様性に関心を持ち、国際社会に貢献できる能力

また、上記の5つの養成能力と各科目との関連についてコマシラバスにも記載することにより、学生に意識づけを行っている。

上記の方針のほか卒業要件に定める修得単位数を踏まえ、教授会で卒業の可否を判定する。

【総合心理学部】

人間環境学を基盤として、総合的な心理学の知識を備え、さらに、選択した専門分野に関するより深い知識と方法論を備えた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、以下の3つの姿勢と技術を以って卒業要件としている。

1. 人間は地球環境を構成する一生物であるという自覚と理解に基づいて、人間の心について考える姿勢を有し、持続可能性社会へ向けた貢献ができること。
2. 心理学に関する幅広い知識を有し、その考察を深める意欲を有し、社会の中で自らの知識を他者に伝える技術を有すること。
3. 心理学の中に自らが選択したより深い理解と知識のある分野を有し、そのデータ収集、解析、そして論理的解釈に関する方法論を身に付け、社会と自身のためにこれを活用する姿勢と技術を有すること。

また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と各授業科目との関連についてシラバスに掲載することにより、学生に意識づけを行っている。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

ホームページにて公開
(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>)

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	人間環境大学
設置者名	学校法人河原学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
収支計算書又は損益計算書	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
財産目録	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
事業報告書	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html
監事による監査報告(書)	https://www.kawahara-gakuen.jp/finance.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称: 度:)	対象年
公表方法:	
中長期計画(名称: 度:)	対象年
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/self-evaluation.html)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 人間環境学部
教育研究上の目的 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))
(概要) 人間環境学部は、建学の精神としての「人間環境学」に基づいた教育を行っている。「人間環境学」とは、人間と環境とをそれぞれ一個の点のように考えるのではなく、また点として考えられた人間や環境をどう関係づけるのかという観点からでもなく、人間や環境を「人間環境」として、すでに相互に深く関係したものとして考えること、つまり、単に文化的な概念でもなく、単に科学実証でもない文理融合の教育研究を教育理念としている。 特に今日における IT テクノロジーのあらゆる分野での急速で高度な展開は、文理融合の「人間環境学」の理念なくしては取り組めない現代の諸課題を数多く含んでいる。人間環境学部は今日の「人間環境」的な諸課題を踏まえて、建学以来の「人間環境学」の実践性を活かし、テクノロジーの時代における「人間環境」のあり方に深く自立的に関わることでできる人材を養成することを目的とする。
卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))
(概要) 人間環境学についての幅広い教養を身につけ、人間環境学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には以下の 3 つの能力を以って卒業要件とする。 <ol style="list-style-type: none">1. 個人・社会・自然が直面する課題に対して専門的な理解を深めると共に、学際的な柔軟性を有し、実践的な能力を有すること。2. グローバルな視野を持ち、国際社会に貢献できる力を有すること。3. 企業・地域社会などのあらゆるコミュニティに寄与する組織的な活動能力を有すること
教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))
(概要) 自然環境と社会環境を総合的にとらえる学問として「人間環境学」を位置づけ、その基盤のもと、人間が生活する歴史・文化的背景と、社会の経済的枠組みや自然科学的視点を理解する「人間環境学」の見地から、個人の社会の精神・心理の課題あるいは環境問題における課題を深く理解し、分析し、対応できる人材を育成する。 心理学科 心理学科では、単に心理学という専門分野の知識を有した人材ではなく、自然・社会環境、歴史・文化環境の知識を有し、広い視野と柔軟な思考力を持って、現代社会に広く対処できる人材を育成する。中核となる心理学の科目は、基礎科目、5 つの分野の発展科目、実習・演習科目により構成されており、幅広く重層的にこれらの科目を履修することで心理学全体の専門的知識と、データ解析や援助において心の事象を

扱い深く理解する実践力を習得する。さらに、幅広い分野での学外実習を通じて、現場で活躍している心理食の実践的かつ専門性の高い学習が可能となっている。

環境科学科

環境科学科では、自然・社会環境に関する専門知識と、精神環境と歴史・文化環境とに関する基礎知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成する。中核となる自然・社会環境科目では、自然環境分野の生態系（動物）、生態系（植物）、物質循環の3領域に、社会環境をあわせた4領域の科目を用意し、自然環境分野と社会環境分野との双方の分野の教養を得るに必要な単位数と、専攻する領域の科目を修得させることで、全体を見通すことができる教養と、特定領域について特化した体系的専門知識を修得させる。

入学者の受入れに関する方針

令和4年度より人間環境学部の学生募集を停止していることから、本欄は未記載とする。

学部等名 心理学部

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公開

(https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))

(概要)

心理学部は、建学の精神である人間環境学の探求を教育の基盤とし、心理学に対する地域社会からの期待や要請に応えるため、人間社会に存在する多岐にわたる心理的課題に対応できる人材を養成することで、地域社会に貢献することを目的とする。

心理学科は、心の健康の問題の理解と支援に直接関係する臨床心理学を中心とした専門領域、一生涯の発達メカニズムや人格形成と関連している教育心理学や発達心理学などの専門領域、個人や社会の相互作用、組織や対人関係と関連する社会心理学、産業・組織心理学などの専門領域、これら3つの専門領域を軸として心理学を広く系統的に学び、現代社会の様々な生活場面において、人の心に関連する事象を分析し、一人ひとりに寄り添うアプローチを通して、心の健康の維持に貢献する人材を養成することを目的とする。

犯罪心理学科は、科学技術の発展とインターネット等の技術革新により、“非行・犯罪”をとりまく問題が複雑化、多様化する中で、心理学および犯罪心理学に関する専門的知識と技能をもって、急速に変わりゆく環境における個人・社会の心について探求し、現代社会において、喫緊の課題である“非行・犯罪”をとりまく問題および多様化する現代社会における諸問題の分析・解決を行い、よりよい社会・まちづくりに貢献できる人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公開

(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>))

(概要)

人間環境学を基盤とした広い視野と柔軟な思考力を有し、さらに、心理学の専門分野についての深い理解力と実践力を備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、以下の3つの能力を以って卒業要件とする。

1. 現代社会における諸問題を心理学的な観点から把握し、修得した専門的知識と実践的能力によって主体的に課題解決にあたることができる。

<p>2. 人の心の働きについて科学的に分析する力と、人の心の多様性および個別性を理解する力を獲得し、それらの力を問題解決への新しい提言に活用することができる。</p> <p>3. 自分自身と他者との相互の関係に関心を持ち、地域社会に貢献する人材として自身の役割を認識しつつ組織的に行動することができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>心理学部では、心の働きについて科学的に理解し、かつ、心の多様性と個別性を尊重できる力を有し、その力を活用して複雑化した現代社会の課題および多様化している心の問題に対応する人材を育成する。</p> <p>心理学科</p> <p>心理学科では、心理学の基盤となる心の仕組み・働きに関する基礎知識とその研究方法、心に対するアプローチ方法を身につけた上で、心理学の知見から多面的に現代社会の抱える課題を冷静に分析し、適切な課題の解決および支援を実践できる人材を育成する。中核となる心理学の科目として、臨床・障害領域、子ども・発達領域、対人・社会領域の3つの専門領域科目とその隣接領域科目を配置しており、心理学の学術的基盤である心理学部共通科目、実践・研究スキル科目を修得することで、心理学の幅広い知識、事象を科学的かつ多角的に分析する力、心を支援する基本的態度と技術を身につける。</p> <p>犯罪心理学科</p> <p>犯罪心理学科では、心理学および犯罪心理学に関する専門的知識を有し、多角的な視点に立脚した思考力と実践力をもって、多様化した現代社会が抱える現実的な問題の分析・解決に貢献できる人材を育成する。全学共通科目と学部共通科目、他学科科目を配置し、豊かな教養と幅広い視野を養うとともに、中核となる犯罪心理学科の科目として犯罪心理学基盤科目と犯罪心理学発展科目を用意し、犯罪心理学発展科目である法心理学、犯罪科学、犯罪臨床、捜査・防犯心理学の4領域の専門科目について段階的かつ体系的に修得することで、高い専門的知識と実践的な技能を身につける。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(入試に係る取組・改善状況)</p> <p>本学は平成12年、従来からあった国際短期大学を発展的に改組し、人間環境大学として開学した。当初は1学部1学科であったが、少子高齢化の進展といった社会的課題を踏まえ、新たに看護学部(平成27年)及び松山看護学部(平成29年)をそれぞれ設置した。さらに同年、人間環境学部のカリキュラム改革を行い、人間環境学部人間環境学科を環境科学科と心理学科に改組を行うとともに、これら両学科について、それぞれ令和4年度から環境科学部及び心理学部に改組を行った。</p> <p>環境科学部では環境保全に配慮した持続可能な社会の構築に向けた提案と実践を行うとともに、地域社会に貢献できる人材養成を、心理学部では人間社会に存在する多岐にわたる心理的課題に対応できる人材の養成を、それぞれ目的としている。</p> <p>このような社会や地域のニーズに応える学部設置等の対応を行うとともに、これらの理念や取り組みを受験生に伝える手段としてオープンキャンパスを重視、教職員一丸となって取り組んでいる。</p> <p>オープンキャンパスでは新設された環境科学部及び心理学部を中心として、参加者一人ひとりに対して担当する教職員を決め、伴走型のきめ細やかな対応をとることで、本学の魅力を伝えている。</p>

このような取り組みの結果、入学定員充足率について、令和元年度以降は連続して100%を超過するなど、劇的に回復を遂げている。

(概要)

心理学部では、人間と社会の関係に関心を持ち、自身の創造性と主体性を発揮しながら心理学の知識を実社会で活かすことによって社会貢献する意欲を持つ人を求めている。心理学科および犯罪心理学科の入学受入れに関する方針は以下のとおり。

心理学科

心理学科では、心理学部の学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）に基づいて、心理学の専門分野を実践的に学び、現代社会の諸問題について主体的に取り組み社会貢献できる人材を育成している。また、人の心を客観的に分析する科学的態度、人の心の多様性や個別性を追究する意欲、自分自身と他者との関係性への興味関心を持ち、心理学の学びを社会に生かすよう絶えざる努力をし続ける人材を求めている。心理学科での教育を受けるにあたっては、人の心を科学的に明らかにし、心の多様性や人間関係を理解する力が必要となるため、数学、国語、社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識と、学びに必要な論理的思考力・判断力・行動力・倫理性を有し、他者と協調・協働していくためのコミュニケーション能力を備えた学生を、多様な選抜制度により受け入れを行っている。

1. 心を客観的に分析する科学的態度を持ち、心の多様性や個別性を追究する人
2. 自分自身と他者との関係性に興味関心を持ち、心理学の学びを社会に生かす努力を継続する人
3. 数学、国語、社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識と、学びに必要な論理的思考力・判断力・行動力・倫理性を持ち、他者と協調・協働していくためのコミュニケーション能力を備えた人

犯罪心理学科

犯罪心理学科では、人間の心と行動や現代社会が抱える様々な問題に強い関心を持つとともに、多様な人間と協働しつつ、人間の心と社会に対して深い理解を得たいという強い意思があることを前提として、心理学と犯罪心理学の専門的知識と実践的な技能・能力をもって積極的に社会に貢献する人材を求めている。犯罪心理学科での教育を受けるにあたっては、専門的知識の修得に必要な知識・技能等、高等学校の教育内容にもとづく基礎学力、研究や実践的な技能・能力の修得に必要な論理的思考力、行動力、および、倫理性、共感性を身につけている学生を多様な選抜制度により受け入れを行っている。

1. 人間の心と行動、および、現代社会が抱える様々な問題に強い関心を持つ人
2. 多様化した現代社会が抱える諸処の問題に対し、その分析や解決に役立てるために心理学および犯罪心理学に関する専門的知識と技能を身につける意欲を持つ人
3. 数学、国語、社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎的な学力を有し、学びに必要な論理的思考力、行動力、および、倫理性、共感性を備えた人

学部等名 環境科学部

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公開

(https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))

(概要)

本学の建学の精神である人間環境学の探求を教育の基盤とし、自然環境を対象として予測が困難である状況下における現場対応力や、調査・観察測定結果に基づく状況把握力・改善案提示力により、環境保全に配慮した持続可能な社会の構築に向けた提案と実践を行い、地域社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。

フィールド生態学科では、持続可能な自然共生社会の実現に向けて、動物・植物・生態系機能に関する専門知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を養成することを目的とする。

環境データサイエンス学科では、実証的に取得したデータから地域の社会的・経済的課題を読み解き、解決策を提案するためのデータ分析手法などの専門知識と技術を身に付けるとともに、農業や環境問題に関連する幅広い視野と知識を身に付け、社会課題や環境問題の解決に向けてそれらを実践的に活用し、社会に貢献できる人材を養成することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公開

(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>))

(概要)

人間環境学についての幅広い教養を身につけ、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる者に学位を授与する。具体的には、以下の三つの能力を以って卒業要件とする。

1. 環境問題全般に関する幅広い視野と、自然や社会、情報の専門的な知識を持ち、持続可能な社会の構築に貢献する力を有する。
2. 自然環境や国際社会の課題を常に意識し、社会で求められる情報リテラシー、コミュニケーション力を備え、積極的に課題解決に取り組むことができる。
3. フィールドから情報を収集し、修得したデータ解析技術を用いて、新しい価値を創造できる。

フィールド生態学科

フィールド生態学科は、環境科学部のディプロマ・ポリシーおよび本学科の人材養成像「動物・植物・生態系機能に関する専門的知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材」に基づき、卒業要件を満たし、以下の能力を備えた学生に対して学位を授与する。

1. 生態学に関する幅広い基礎知識を有しており、動物、植物、生態系機能のいずれかに関する生態学的な専門的知識を有している。
2. 人間社会や環境情報に関する幅広い基礎知識を有する。
3. 自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる。
4. フィールドにおける自然環境調査を、計画し実行する能力を有している。

環境データサイエンス学科

環境データサイエンス学科は、環境科学部のディプロマ・ポリシーおよび本学科の人材養成像「社会・データサイエンスに関する専門知識と、社会や情報、環境全般に関する基礎知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と鋭い洞察力、柔軟な思考力によって、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、

そして行動ができる」に基づき、卒業要件を満たし、以下の能力を備えた学生に対して学位を授与する。

1. 環境科学を基盤とした、社会科学もしくはデータサイエンス学の専門的知識を有している。
2. 人間社会や自然環境から得られる情報を収集し、適切に分析する能力を培い、新しい価値を創造できる。
3. 持続可能な社会の実現に向けて、自然・生態系など人間社会と自然環境に関する素養と幅広い知識を有する。
4. 環境問題を含む自然・社会・情報環境における国内外の課題に目を配り、多角的な視点と柔軟な思考力、コミュニケーション力を備え、積極的な行動力により、課題解決に取り組むことができる。

教育課程の編成及び実施に関する方針

(公表方法：ホームページにて公開

(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>))

(概要)

本学の建学の精神である『人間環境学の探求』に則り、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材の育成といった本学の教育の理念を基盤として、環境科学部の教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を、『自然環境と社会環境を総合的にとらえる学問として「環境科学」を位置づけ、その基盤のもと、社会の経済的枠組みや自然科学的視点を理解する「環境科学」の見地から、環境問題を、自然、社会、情報の側面からとらえ、課題を深く理解し、分析し、SDGs (Sustainable Development Goals) の達成に向けて行動できる人材を育成する』と設定する。

フィールド生態学科

フィールド生態学科では、動物・植物・生態系機能に関する専門知識と、社会や情報に関する基礎知識を有し、自然共生社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力によって人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案、そして行動ができる人材を育成する。中核となるフィールド生態科目には、陸生動物生態、水生動物生態、植物生態の3領域に、生態系機能評価をあわせた4領域の科目を用意し、フィールド生態学共通の学術基盤と解析手法を得るのに必要な科目と、専攻する領域の科目を修得させることで、自然環境全体を見通すことができる教養と、自然環境から必要なデータを得て解析する技術と、特定領域について特化した専門知識を身に付けさせる。

フィールド生態学科では、先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するための教育課程の編成方針(カリキュラム・ポリシー)を以下のように設定する。

1. 生態学に関する幅広い基礎知識と動物・植物・生態系機能のいずれかに関する専門知識を身につけるため、フィールド生態科目を配置する。
2. 社会や情報に関する基礎知識を身につけるため、環境データサイエンス科目を配置する。
3. 柔軟な思考力を身につけ、人間社会の発展と環境保全のバランスを考慮した発言と提案ができる能力を身につけるため、諸課題を総合的にとらえ、社会で活躍するための基礎力を修得する学部共通科目を配置する。
4. 広い視野をもち、異分野に関する知識を理解するため、学部共通科目として複数分野からなる科目群を配置する。

5. フィールドにおける自然環境調査を計画し実行能力する能力を身につけるため、フィールド生態科目として、実践的な実習科目を配置する。

環境データサイエンス学科

環境データサイエンス学科では、環境情報・社会環境に関する基礎知識と、ICT (Information and Communication Technology) や社会活動に関する専門知識を有し、持続可能な社会の実現に向けて、広い視野と柔軟な思考力により社会の発展と環境保全のバランスを考慮した提案と行動ができる人材を育成する。中核となる環境データサイエンス科目では、環境情報、社会環境の2領域の科目を用意し、環境データサイエンスの体系的な学修に必要な共通必修科目と、専攻する領域の専門科目を修得させる。特に、国内外における少人数制フィールド調査実習や、プロジェクトベースのデータ解析実習において、実践的かつ専門的なスキルを修得させる。

環境データサイエンス学科では、先に示したディプロマ・ポリシーに掲げた能力を身につけた人材を養成するための教育課程の編成方針 (カリキュラム・ポリシー) を以下のように設定する。

1. 環境学・情報学・社会科学に関する幅広い基礎知識と、環境情報と社会環境のいずれかに関する専門知識を身につける為、環境データサイエンス科目を配置する。
2. 国内外の文化の理解や地域社会との交流により、自ら課題を発見する能力を養う為、少人数制による社会フィールド調査やデータ解析演習などの実践的な実習科目を多数配置する。
3. 多様化する環境問題や地域社会の諸問題に関心を持ち、自らデータを収集し分析する情報技術を修得し、環境と調和した人間社会を創造できる実践的な力を身につけるため、環境データサイエンス共通科目を配置する。
4. 動物・植物・生態系機能に関する基礎知識を身につけるため、フィールド生態科目を配置する。
5. 異分野を含めた多角的な視野と柔軟な思考力、コミュニケーション力、課題解決のための積極的な行動力を養うための、学部共通科目を配置する。

入学者の受入れに関する方針

(公表方法：ホームページにて公開

(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>))

(概要)

人間環境大学環境科学部は、理系から文系までの幅広い教養を身に着け、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる人材を輩出する学部である。

人間環境大学は、人間環境学を理念とし、人間環境に関する該博な知識と深い理解力を備え、すぐれた見識をもって人類と国家社会に貢献できる有為な人材を育成することを目的としている。環境科学部では、自然、社会、情報、およびそれらの関係についての高度な知識や技術を求め、創造的に学問を深めることができ、主体的に物事に取り組む人を求める。環境科学部にはフィールド生態学科および環境データサイエンス学科があり、各学科の入学者の受入れに関する方針は以下に示す。

フィールド生態学科

人間環境大学環境科学部の学位授与の方針に基づいて、環境科学を基盤とした各専門分野の学問を実践的に修め、広い視野と柔軟な思考力によって社会貢献できる人を養成する。フィールド生態学科では、生物やそれを取り巻く非生物的要素により構成される自然環境と、その保全に配慮した社会に関心があり、フィールド調査で培った環境保全に関する知識と技能を、自然共生社会の実現に役立てる意欲を持つ人を求めます。フィールド生態学科での教育を受けるにあたっては生態系や環境問題を理解す

る力が必要となるため、生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、多様な人々と協働して学ぶ意欲を備えた人を、多様な選抜制度により受け入れている。

1. 生物やそれを取り巻く非生物的要素により構成される自然環境と、その保全に配慮した社会に関心がある人
2. フィールド調査で培った環境保全に関する知識と技能を、自然共生社会の実現に役立てる意欲を持つ人
3. 生物学を始めとする高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性をもち、多様な人々と協働して学ぶ意欲を備えた人

環境データサイエンス学科

環境データサイエンス学科では、自然科学分野、情報学分野だけでなく、社会科学分野なども含めた、文理両分野に関して、主体性を持って多様な人々と協働して学び続ける意欲があり、また、環境や国際社会問題に深い興味を持ち、ICT (Information and Communication Technology) 活用によって積極的に社会貢献する人材を求めている。環境データサイエンス学科での教育を受けるにあたっては、情報や社会活動を理解する力が必要のため、情報や数学もしくは社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性を備えた学生を、多様な選抜制度により受け入れている。

1. 自然科学分野だけでなく、社会科学分野なども含めた、文理両方に関して、主体性を持って多様な人々と協働して学び続ける意欲がある人
2. 環境や国際社会問題に深い興味を持ち、ICT (Information and Communication Technology) 活用によって積極的に社会貢献する人
3. 情報や数学もしくは社会などの高等学校の教育内容に基づく基礎知識や、学びに必要な論理的思考力・判断力・表現力・行動力・倫理性を備えた人

学部等名 看護学部

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公開
(https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))

(概要)

建学の精神である人間環境学の探求に基づく「〈人間〉と〈環境〉、および人間と環境との〈関係〉の深い理解に基づいた質の高い看護実践を創造できる自立した人材の育成」を目指し、豊かな人間性を培いつつ、人びとの多様かつ複雑な健康ニーズに応えるため、科学的根拠に基づいた質の高い看護実践を創造できる自立した看護職者を育成する。あわせて常に学び続ける姿勢を持つ看護の実践者、保健師、養護教諭、助産師、教育者および研究者を育成し、社会に貢献することを目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公開
(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>))

(概要)

人間環境学の探求に基づく〈人間〉と〈環境〉、および人間と環境との〈関係〉の深い理解の上に、豊かな人間性を培い、人びとの多様な健康ニーズに応えるため科学的根拠に基づいた質の高い看護実践を創造できる自立した人材を育成することが看護学部の教育理念としている。そのために教育目標に掲げた「専門的なコミュニケーション

「コミュニケーション能力」「アセスメント能力」「判断力」「創造力」「実践力」「自己研鑽能力」が学修成果として備えた者に卒業を認定し、学位を授与する。

具体的には、定められた128単位以上を修得し、以下の能力を備えた学生に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護実践に必要な専門的なコミュニケーション能力とヘルスアセスメント能力
2. 人々の健康と環境について科学的根拠に基づき判断することができる能力
3. 多様な看護実践の場において、看護を創造し実践することができる能力
4. 保健医療福祉の連携においてリーダーシップを発揮、その発展に貢献できる能力
5. 看護を創造し実践するために必要な専門的知識を身につけ研鑽し続ける能力

教育課程の編成及び実施に関する方針

（公表方法：ホームページにて公開

(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>)

（概要）

看護学部のカリキュラムは、前述した教育理念、教育目的・教育目標に則り、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）達成のために、以下のように編成する。

1. 基礎科目、専門基礎科目、専門科目の3科目群からカリキュラムを編成する
2. 基礎科目では、深い人間理解、豊かな人間性を培うための科目を配置する
3. 人々の多様かつ複雑な健康ニーズの実践的な把握に必要な専門的コミュニケーション能力とヘルスアセスメント能力を実践的に培うために、模擬患者・仮想空間などのシミュレーションを取り入れた科目を配当する
4. 科学的根拠に基づいた質の高い看護実践の修得を目指すために、専門基礎科目の知識と専門科目を関連付けて、「知る」「身につける」「使ってみる」の3層を分離させることなく、相互に融合させ、反復しつつ進行する螺旋状の学習形態を配置する
5. 多様な看護活動の場において看護を創造し実践する応用的な能力を培うために、4つの選択強化プログラム（地域・在宅療養者と家族の支援、こどもと家族の看護、がん看護、認知症高齢者と家族の看護）を配当する
6. グローバルな視点で看護を実践するために、外国語や国際看護に関する科目を配当する
7. 保健医療福祉の連携と発展に貢献する能力を養うために、多職種と連携する能力、その連携のリーダーシップを発揮するための基礎的能力を養う科目を配当する
8. 全科目において、国家資格に必要な専門的知識を1年次から段階的かつ継続的に学修できるよう設定する

看護学部の特徴として、看護師基本コースの他、4つの選択強化プログラム（地域・在宅療養者と家族の支援、こどもと家族の看護、がん看護、認知症高齢者と家族の看護）、保健師コース（選択）、養護教諭コースを配置する。また、人びとの多様な健康ニーズに応えるため科学的根拠に基づいた質の高い看護実践をするために必要な基礎的能力の強化のために、人体の構造、機能、病態生理、疾病、看護をバラバラで教授するのではなく、リンクさせて教授する「看護のための形態機能と疾病」などの科目を設定し、螺旋状の学習形態を意識して配置する。

入学者の受入れに関する方針

（公表方法：ホームページにて公開

(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>)

(概要)

看護学部は、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）に則り、人間への深い理解を有し、質の高い看護実践を創造し自立できる看護職者の育成を目指し、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識、意欲を備えた人を求める。

1. 人々の多様な価値観を尊重し、思いやることができる人
2. 他者の考えを理解し、また自己の考えを適切に伝えるためのコミュニケーション能力の基礎的内容（聞く・話す・読む・書く）を身につけている人
3. 看護を科学的に実践するための基盤となる自然科学の知識、論理的な思考の基礎を持っている人
4. 人々の健康を支援する看護実践に熱意を持ち、継続して主体的に学修に取り組むことができる人

このような学生を選抜するため、多様な入試方法において総合的に判定する。

学部等名 松山看護学部

教育研究上の目的

(公表方法：ホームページにて公開

(https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))

(概要)

松山看護学部は、対象となる人々が健康に生きることを支える看護、ならびにより健康な地域社会の発展に貢献する看護を理念として掲げている。

人間の尊厳に基づいた豊かな人間性を培い、人々のライフサイクルに応じた多様な健康ニーズに対応できる広い視野で、科学的・専門的な知識と技術に基づく判断力と探求心をもって質の高い看護実践ができる自立した看護職者を育成し、人々が健康に生きることを支援する。あわせて地域社会における保健・医療・福祉の連携と発展に貢献する。即ち、対象となる人々の健康に生きることを支える看護、及び、より健康な地域社会の発展に貢献する看護職者となる人材育成を目的とする。

卒業の認定に関する方針

(公表方法：ホームページにて公開

(<https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html>))

(概要)

人間の尊厳に基づいた豊かな人間性を培い、対象となる人々が健康に生活し生きることを支援する看護、及び地域社会がより健康に発展するために貢献する看護を教育理念に掲げ、そのために教育目標として「豊かな人間性と倫理観」「ヒューマンケアの実践能力」「専門職業人としての自立性」「多職種連携」「社会貢献」「グローバルな視野と多様性」「国際社会貢献」が学修成果として身についた者に卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、定められた130単位以上を修得し、以下のことを身につけた学生に卒業を認定し、学士（看護学）の学位を授与する。

1. 看護専門職者として、生命の尊厳や人間の尊重をふまえた高い倫理感を身につけ、他者に寄り添うことができる。
2. 看護専門職者として、幅広い知識を有し豊かな人間性を備え、自立し専門的知識・技術や援助の人間関係能力を身につけることができる。
3. 看護専門職者として、科学的・論理的思考に基づく観察力・判断力・問題解決能力を身につけることができる。
4. 看護専門職者として他職種連携ができ、地域社会の発展に貢献できる能力を身につけることができる。
5. 看護専門職者として探究心をもち、社会の変化にともなう看護の発展に寄与できる継続的自己学習能力を身につけることができる。

<p>6. 看護専門職者としてグローバルな視野をもち、国際社会の看護や保健医療福祉に貢献できる基礎的な能力を身につけることができる。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>松山看護学部のカリキュラムは、前述した教育目的・教育目標に則り、ディプロマポリシー達成のために1年次から3年次前学期までは看護職者として必要な基礎科目、専門基礎科目、専門科目を講義や演習・実習で学びます。3年次後学期から4年次前学期までは臨地・臨床実習として看護の現場において、受持ち患者を中心に実践的な学習を行う。なお実践的な学習は、入学後早期(8月)に1週間の実習(基礎看護学実習Ⅰ)を行い、実践現場における看護の基礎的な知識・技術・態度を修得する。さらに1年次の後学期において、対象や療養の場の多様性に対応するために「地域・在宅看護学実習Ⅰ」を取り入れ、愛媛県内の松山市圏域(都市的地域)と伊方・久万高原町圏域(中山間・高齢化地域)の両地域を比較し、健康・不健康を問わず、人々が住み続けられる町づくりや医療体制は何かを学ぶ。また松山看護学部のカリキュラムの特色として、1年前期から倫理(生命倫理、看護倫理Ⅰ)を必修科目とし、人の生老病死について考える機会を設け、2年生ではそれを演習(生と死のケア演習)として共有し、3年次後期および4年次前期には看護研究、4年次後期は倫理(看護倫理Ⅱ)を設定して、人間が生きること、老いること、病むこと、死を迎えることについて考究する。さらに、看護師基本コースのほかに、保健師コース(選択)と4つの選択強化プログラム(小児看護、がん看護、認知症看護、在宅・終末期看護)を配置する。人材育成の方針は以下のとおりである。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 看護師国家試験受験資格取得を目的とする看護師課程を基本とする。 2. 保健師国家試験受験資格を取得する保健師課程を設ける。 3. 看護師課程におけるキャリア形成の基礎力を強化するプログラムとして、自由に選択できる小児看護、がん看護、認知症看護、在宅・終末期看護の4つの選択強化プログラムを設ける。 4. グローバルな視野をもって国際社会に貢献できる国際看護学領域を設ける。
<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(概要)</p> <p>生命とその尊厳を守り、あらゆる人々を最適な健康状態へと導く看護サービスを追求する豊かな人間愛と倫理観に富み、地域の保健・医療・福祉の発展に寄与できる看護人材の育成をめざし、次のような学生を求めている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人々の健康に関心があり、人と関わるのが好きな人 2. 他者への感謝と相手の気持ちを考え、尊重できる人 3. 自らの課題を発見し、解決に向け主体的に行動できる人 4. 自分で努力して成長していくことができる人 5. 看護職者を目指す熱意のある人 <p>上記5つの要件を満たすために、規則正しく健康的な生活習慣を身につけ、正課外もしくは学外のボランティア活動や地域諸活動への積極的な関心と社会貢献への意欲を持つ者を求めている。</p>

学部等名 総合心理学部
<p>教育研究上の目的 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html))</p>
<p>(概要) 総合心理学部は、建学の精神である人間環境学の探求に基づき、人間環境学を土台として、心理学に関する総合的な知識と方法論を身につけることで、社会貢献と自己実現できる個人を養成することに加え、ひとつ以上の特定の心理学分野に関する、より専門的な知識と方法論、見えない心を可視化するスキルを身につけ、公認心理師を含めた幅広い領域で活躍できる心理支援やビッグデータからアンケート処理までの幅広いデータ処理などを行い、地域社会に貢献できる人材育成を目的とする。</p>
<p>卒業の認定に関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(概要) 総合心理学部の学位授与の方針は次のとおりである。</p> <p>人間環境学を基盤として、総合的な心理学の知識を備え、さらに、選択した専門分野に関するより深い知識と方法論を備えた者に対して卒業を認定し、学位を授与する。具体的には、以下の3つの姿勢と技術を以って卒業要件とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間は地球環境を構成する一生物であるという自覚と理解に基づいて、人間の心について考える姿勢を有し、持続可能性社会へ向けた貢献ができること。 2. 心理学に関する幅広い知識を有し、その考察を深める意欲を有し、社会の中で自らの知識を他者に伝える技術を有すること。 3. 心理学の中に自らが選択したより深い理解と知識のある分野を有し、そのデータ収集、解析、そして論理的解釈に関する方法論を身に付け、社会と自身のためにこれを活用する姿勢と技術を有すること。
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(概要) 総合心理学部の「ディプロマポリシー」および「養成人材像」に沿って記した総合心理学の教育を実践する上でのカリキュラムポリシーは次の5点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間環境学を土台として、心について自然科学的にも人文科学的にも総合的に学んでいくための基盤教養について初年度を中心として獲得した上で、心理学を総合的に学ぶことをスタートできるカリキュラムとする。 2. 現代の心理学として存在している心理学分野を網羅する基盤科目と、現代社会の諸問題と連動する多様な高度専門科目を提供することで、心理学を総合的に学ぶことができるカリキュラムとする。 3. 現代の心理学を支える心理統計法、実験計画法、調査計画法、臨床領域研究法といったスキルについて、4年間で継続的に技術取得できるカリキュラムとする。 4. 提供される全科目について、1コマごとにシラバスを用意することで、1コマ水準での学習目的と習得すべき内容が明示されることにより、科目の全体の学びの中に各コマを位置づけながら自覚的に学べる教育を実現する。さらには、科目間の関連性についても可視化されたカリキュラムを提供する。 5. 各科目での学習目的の達成に関する成績評価基準を明確にすることで、総合心理学部の要請人材像に沿った教育実践を提供する。

<p>入学者の受入れに関する方針 (公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/admission.html))</p>
<p>(概要) 総合心理学部のディプロマポリシー、カリキュラムポリシーに沿って、次のアドミッションポリシーとする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合心理学部における教育研究活動に取り組むための前提として、高等学校等において修得されるべき基礎的な能力を身につけていること。 2. 本学の理念である「人間環境学」について、持続可能性社会への貢献のために興味関心があり、学ぶ意欲を有していること。 3. 人間の心の特性について、自然科学的にも人文科学的にも、幅広く学ぶことに興味関心があり、その成果を社会と自分の将来の為に活用したい意欲を有すること。 4. 心理学を総合的に学ぶことで、自分の専門分野を見出し、確立していくことに意欲を有しており、その成果を社会と自分の将来のために活用したい意欲を有していること。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html)

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
—	3人	—					人
人間環境学部	—	0人	0人	1人	0人	0人	1人
心理学部	—	7人	3人	7人	2人	0人	19人
環境科学部	—	7人	3人	4人	6人	0人	20人
看護学部	—	9人	8人	9人	13人	1人	40人
松山看護学部	—	10人	4人	7人	2人	3人	26人
総合心理学部	—	5人	3人	6人	0人	0人	14人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		115人					115人
各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)		公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)					
c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等

学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人間環境学部	-人	-人	-%	400人	449人	112.3%	-人	3人
心理学部	150人	160人	106.7%	300人	323人	107.7%	-人	-人
環境科学部	100人	107人	107.0%	200人	218人	109%	-人	-人
看護学部	95人	100人	105.3%	380人	429人	112.9%	-人	-人
松山看護学部	80人	86人	107.5%	320人	335人	104.7%	-人	-人
総合心理学部	80人	91人	113.8%	160人	175人	109.4%	-人	-人
合計	505人	544人	107.7%	1760人	1929人	109.6%	-人	3人

(備考)
人間環境学部は令和4年度から募集停止。
心理学部・環境科学部・総合心理学部は令和4年度新設。

b. 卒業生数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人間環境学部	237人 (100%)	14人 (5.9%)	204人 (86.1%)	19人 (8.0%)
看護学部	86人 (100%)	3人 (3.5%)	80人 (93.0%)	3人 (3.5%)
松山看護学部	59人 (100%)	2人 (3.4%)	49人 (83.1%)	8人 (13.6%)
合計	382人 (100%)	19人 (5.0%)	333人 (87.2%)	30人 (7.9%)

(主な進学先・就職先) (任意記載事項)

(備考)

c. 修業年限期間内に卒業する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業生数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)

(備考)

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

<p>(概要)</p> <p>全学の教学を統括する教学マネジメント委員会において、シラバスの様式を検討し、コマシラバス（各コマ毎に詳細化されたシラバス）として統一の様式を整えた。また、コマシラバス作成上の注意点を専任教員に対し伝えるため、説明会を実施している。非常勤講師には、留意点を記載した作成要領を送付し作成を依頼している。</p> <p>また、提出されたシラバスはカリキュラム責任者等、第三者により記載内容を確認する体制をとっている。</p> <p>今年度の主な記載項目は、下記の通りである。</p> <p>区分、科目コード、学年・期、科目名、単位数、授業形態、必修・選択、学習時間、前提とする科目、展開科目、関連資格、担当教員名、ディプロマ・ポリシーとの関係、カリキュラム・ポリシーとの関係、カリキュラム全体の中でのこの科目の位置づけ、科目の目的、到達目標、科目の概要、科目のキーワード、授業の展開方法、オフィスアワー、履修判定指標、評価方法、教科書、参考文献、実験・実習・教材費</p> <p>また上記に加え、各コマ毎に以下の記載項目がある。</p> <p>主題、科目の中での位置付け、コマ主題細目、細目レベル、キーワード、コマの展開方法、復習・予習課題、教材・教具</p> <p>授業計画（シラバス）の公表時期は、4月の開講に合わせて行い、履修登録時に確認が行えるように配慮している。</p>
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

<p>(概要)</p> <p>コマシラバスにより“履修判定指標”が授業毎に定められており、その授業で修得すべき具体的内容を履修登録時から学生に対し明確に示している。</p> <p>なお、コマシラバスについてはカリキュラム責任者等による第三者チェックが行われており、「履修判定指標」が定期試験などの評価対象となる内容と一致しているかを学生へアンケート調査を行っている。</p> <p>また、学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連について、シラバスに掲載することにより、授業科目と学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）との関連性の意識づけている。</p> <p>上記の方針の他、卒業要件に定める修得単位数を踏まえ、教授会で卒業可否を判定する。</p>																																																			
<table border="1"> <thead> <tr> <th>学部名</th> <th>学科名</th> <th>卒業に必要となる単位数</th> <th>GPA制度の採用 (任意記載事項)</th> <th>履修単位の登録上限 (任意記載事項)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">人間環境学部</td> <td>心理学科</td> <td>126 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>環境科学科</td> <td>126 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">心理学科</td> <td>心理学科</td> <td>126 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>犯罪心理学科</td> <td>126 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">環境科学部</td> <td>フィールド生態学科</td> <td>126 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>環境デザイン学科</td> <td>126 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>看護学部</td> <td>看護学科(新・旧)</td> <td>128 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">松山看護学部</td> <td>看護学科(新)</td> <td>130 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>看護学科(旧)</td> <td>128 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> <tr> <td>総合心理学部</td> <td>総合心理学科</td> <td>126 単位</td> <td>(有)・無</td> <td>単位</td> </tr> </tbody> </table>	学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)	人間環境学部	心理学科	126 単位	(有)・無	単位	環境科学科	126 単位	(有)・無	単位	心理学科	心理学科	126 単位	(有)・無	単位	犯罪心理学科	126 単位	(有)・無	単位	環境科学部	フィールド生態学科	126 単位	(有)・無	単位	環境デザイン学科	126 単位	(有)・無	単位	看護学部	看護学科(新・旧)	128 単位	(有)・無	単位	松山看護学部	看護学科(新)	130 単位	(有)・無	単位	看護学科(旧)	128 単位	(有)・無	単位	総合心理学部	総合心理学科	126 単位	(有)・無	単位
学部名	学科名	卒業に必要となる単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)																																															
人間環境学部	心理学科	126 単位	(有)・無	単位																																															
	環境科学科	126 単位	(有)・無	単位																																															
心理学科	心理学科	126 単位	(有)・無	単位																																															
	犯罪心理学科	126 単位	(有)・無	単位																																															
環境科学部	フィールド生態学科	126 単位	(有)・無	単位																																															
	環境デザイン学科	126 単位	(有)・無	単位																																															
看護学部	看護学科(新・旧)	128 単位	(有)・無	単位																																															
松山看護学部	看護学科(新)	130 単位	(有)・無	単位																																															
	看護学科(旧)	128 単位	(有)・無	単位																																															
総合心理学部	総合心理学科	126 単位	(有)・無	単位																																															
GPAの活用状況(任意記載事項)	公表方法:																																																		
学生の学修状況に係る参考情報(任意記載事項)	公表方法:																																																		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info2.html)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考 (任意記載事項)
心理学部	心理学科	700,000 円	200,000 円	430,000 円	
	犯罪心理学科	700,000 円	200,000 円	430,000 円	
環境科学部	フィールド生態学科	700,000 円	200,000 円	430,000 円	
	環境データサイエンス 学科	700,000 円	200,000 円	430,000 円	
人間環境学部	心理学科	700,000 円	200,000 円	380,000 円	
	環境科学科	700,000 円	200,000 円	430,000 円	
看護学部	看護学科	950,000 円	200,000 円	645,000 円	
松山看護学部	看護学科	950,000 円	250,000 円	550,000 円	
総合心理学部	総合心理学科	700,000 円	200,000 円	380,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組

(概要)

【人間環境・心理・環境科学部】

- ・一人ひとりの顔が見える大学
少人数教育を中心にして、学生一人ひとりの適性にあったカリキュラムを選択可能となっている。
- ・地域に根ざした大学
岡崎商工会議所と提携し、地元企業との関係を重視している。
- ・基礎ゼミ (1年次)
10～15名程度のクラス編成で、大学で必要とするスキルの養成を行っている。レポートの書き方、プレゼンテーションの方法など具体的に指導している。
- ・メンター
1年次は基礎ゼミ担当の教員がメンターとして学生の履修指導や生活面でのサポートをしている。なお、2年次は学科教員がメンターとなる。
- ・演習 (3年次、4年次)
3年次では、卒業論文・卒業研究にむけての準備作業が始まる。
4年次は3年間で学んだことを卒業論文や卒業研究としてまとめていくこととなる。
- ・新入生ウェルカムキャンプ
入学式後、合宿を通して先生や先輩からアドバイスを受けながら、4年間の履修計画を具体的に作成する。

【看護学部】

- ・資格取得への支援
国家試験の100%合格を目指して、「国家試験対策室」を設置するほか、集中講義、模擬試験など万全の体制で試験をサポートしている。また、「看護師+α」のスキルを身につける「選択強化プログラム」制度 (2・3年次選択) を用意するほか、「保健師」「養護教諭一種」の資格取得も目指せるコース (2年次選択) も用意している。
- ・基礎ゼミナール
1年次前期に開講される「基礎ゼミナール」では、これから大学で勉強していくうえで

必要となる基礎的な技能や、知的探求心を鍛錬することを目的にしている。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、学生同士の親睦と連帯意識を育成している。

- ・学習・生活をサポートする「アドバイザー制度」

学生が有意義で充実した学生生活を送れるよう、専任教員による「アドバイザー制度」を実施している。学習・進路面の相談のみならず、学生生活の相談など、4年間を通じて手厚い支援を受けることが可能となっている。学生は、アドバイザー教員が設定したオフィスアワーを利用して気軽に相談をすることができる。

【松山看護学部】

- ・資格取得への支援

国家試験 100%の合格を目指して、「国家試験対策委員会」を設置するほか、集中講義、模擬試験などで万全の体制を組織し国家試験をサポートします。また、「看護師資格+α」のスキルを身につける「4つの選択強化プログラム」制度（小児看護、がん看護、認知症看護、在宅終末期看護）や「保健師」の資格取得も目指せるコースも用意している。

- ・基礎ゼミナール

1年次前期に開講される「基礎ゼミナール」は、これから大学で勉強していくうえで必要なアカデミックスキルの修得や知的探究心を鍛錬することを目的としている。また、少人数教育による教員との直接対話を通じて学習意欲を啓発するとともに、ポートフォリオを作成することで、キャリア・ストーリーを描くことができる。

- ・学習・生活をサポートする「メンター制度」

学生が有意義で充実した大学生生活を送れるよう、専任教員による「メンター制度」を実施している。学習・進路面はもちろん、学生生活の相談など4年間を通して手厚い支援を受けることができる。メンター教員以外にも、教員が示したオフィスアワーを利用して気軽に相談をすることができる。

【総合心理学部】

- ・入学前の読書会について

年内入試で合格した学生を対象に、心理学及び読書への興味を高め、本の読み方スキルを身につけることを目的として、心理学周辺領域の図書の読書会を行っている。

- ・メンター制度について

学生全員にメンター教員を割り当て、学生一人一人の修学や生活の状況にきめ細かく対応し、学生生活を支援している。

- ・オリエンテーション合宿（親睦会）

新入生を対象に、履修相談を行うとともに教員や新入生同士との交流・親睦を深める機会を設けることで、学生生活を円滑にスタートできるようサポートしている。

- ・プロゼミについて

教員が行っている研究プロジェクトや地域貢献活動に学生たちも関わり、本格的な心理学活動に触れることで、座学では身に付かない体験知を得られる機会を提供している。プロゼミへの参加により、教員との多くの交流や相談の機会を提供している。

b. 進路選択に係る支援に関する取組

(概要)

【人間環境・心理・環境科学部】

- ・専任職員による就職・進路相談

就職・進路相談室がサポートを行っており、令和4年度は就職率100%を達成した。

- ・人間力を備えた企業人の育成

人間力を高めるため、様々なガイダンスを実施、社会を構成し運営する力や、自立した力を伸ばしていく。また、個別面談を通じ、「個」を重視したサポート体制を構築

している。

- ・個別指導

1年次の段階から徹底的な個別指導によって学生本人の希望・適性に合った就職支援を行っている。

- ・保護者との連携

激変する社会状況に対応する為、学生のみならず保護者の方々にも就職活動について、ご理解とご協力を得る為、キャリア通信という就活情報紙を年2回発行・送付し、学生と保護者の方々の不安の軽減に努めている。

【看護学部】

- ・1年次から「キャリアデザイン」に取り組み、看護職としての自己実現に向けて意識を高める支援

1年次前期より「医療キャリアの基礎」として単位化されたキャリアデザイン科目を置いている。ここでキャリア形成の在り方と医療専門職業人としてのマナーについて学ぶほか、具体的な看護実践の活動を通じて主体的に自身のキャリア設計を支援している。また「キャリアデザイン支援・資料室」を設置し、看護管理職を経験した専任職員が常駐するなど、きめ細やかなフォロー体制を整備している。

【松山看護学部】

- ・1年次より「医療キャリアの基礎」として単位化されたキャリアデザインに取り組んでいる。ここでは、キャリア形成の在り方や医療専門職を経験した教員からそれぞれの専門領域について学ぶほか、具体的な実践看護の活動を通じ、主体的にキャリア設計を描いていきます。また、インターンシップへの参加推奨や、就職先の相談、就職後の支援など、きめ細やかなフォロー体制の整備を行っている。

【総合心理学部】

- ・就職・進路について

就職委員会と学生支援課が、学生一人ひとりの希望や夢の実現に向けてきめ細かくサポートを行っている。資格取得やインターンシップのための支援体制を充実させ、低学年からキャリアガイダンスを行い、進路についての意識付けを行っている。

- ・心理学を強みとして活躍できる企業人の育成について

学生支援課とメンターの先生方との連携による「個」を重視したサポート体制によって、心理学を学ぶことで身に付けた共感する力や洞察力を活かし活躍できる企業人の育成に取り組んでいる。また、愛媛県のアントレプレナー育成事業に参画、起業家精神を醸成したり、地域の大学と共同で運営するコンソーシアムえひめの国際交流事業などを通じて、異文化理解力を高め、グローバル化や地域経済の発展を担うグローバル人材の育成を支援している。

- ・就職先の開拓について

地域の中核となる団体や企業との連携を深めることで、修学の基盤から就職活動における良好な環境を構築し、機会提供に努めている。

c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組

(概要)

【人間環境・心理・環境科学部】

- ・教員による学生生活に対する相談

大学生活で困ったこと、友人関係などで問題が発生したときには、メンター教員と相談することができるようにしている。

- ・専門のカウンセラーによる相談

臨床心理士によるカウンセリングを受けることも可能となっている。なお、カウンセラーの相談は月曜日から金曜日の午後に設定している。

【看護学部】

- ・学生相談

大学生生活で困ったこと、友人関係などで問題が生じた際には、学生相談担当の教員が相談に対応している。また、ハラスメント問題専用の窓口を設け、対応している。

・健康管理

年に1回健康診断を実施し、学生の健康チェックを行うとともに、病院実習に備え、入学時に感染症抗体検査を実施し、抗体価が基準に満たない場合は、予防接種の指導を行っている。さらに、学校保険として日本看護学校協議会共済会の総合保障制度に全員が加入、実習先や学校管理下（登下校を含む）での傷害事故、賠償事故および臨地実習での感染事故にも対応できるようにしている。これらを通して、医療に関わる専門職として主体的に自身の健康管理ができることを目指している。また、保健室では、学生が健康を維持・増進できるように必要な知識を提供し、定期健康診断を実施して病気の早期発見、早期治療ができるようにしている。

【松山看護学部】

・学生相談

大学生生活では、授業についていけない、友人とうまく付き合えない、家族との問題がある、将来に不安がある、身体の悩み、精神的に不安定になるなど、いろいろな問題が生じることが想定されることから、話を聞いてほしい、相談したいときは、学生相談室を利用することができるように周知をしている。また、ハラスメント委員会を設置し、キャンパスハラスメント等の防止や救済に関する対策を講じている。

・健康管理

年に1回健康診断を実施し学生の健康チェックを行うことで、病気の早期発見、早期治療ができるよう配慮している。なおかつ医療に関わる専門職として、自発的に自身の健康管理ができることを目指している。1年次の健康診断では、病院実習に備えて感染症抗体検査を実施し、抗体価が基準に満たない場合には予防接種の指導を行い、感染症予防に努めている。

【総合心理学部】

・教員による支援について

メンターを中心に教員が、学生一人ひとりの大学生生活や友人関係などの悩みについて相談に応じ一緒に解決を目指している。学生委員会がその情報を集約し、秘密保持を厳守しつつ、教員間で共有する体制を構築し、全身体制で学生支援を行っている。

・健康診断について

年に1回全学生を対象に、定期健康診断を実施している。学生の健康チェックを行い、病気の早期発見、早期治療ができるようサポートしている。

・ハラスメント相談窓口について

ハラスメント相談窓口を設置し、キャンパスにおけるハラスメント（セクシャルハラスメント、アカデミックハラスメント、パワーハラスメントやその他のハラスメント）に対応している。相談は相談者の立場にたち、プライバシーを厳守して、ともに解決策を見出せる体制を整えている。

・学生相談室について

学内に設置している学生相談室を利用することで、月に1～4日、専門のカウンセラー（公認心理師・臨床心理士）によるカウンセリングを受けることができる。

・要配慮学生への対応について

入学前に要配慮の申し出があった学生、及び入学時のメンターによる個別面談で要配慮の申し出があった学生に対しては、学生委員会で具体的な支援方法を検討し、配慮事項については守秘義務を厳守しつつ適切な教員に情報共有を行い、遺漏なく対応を行う体制を取っている。また当該学生に対して小まめに声かけを行い、配慮が十分か確認している。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法：ホームページにて公開 (https://www.uhe.ac.jp/guide/edu_info.html)

